

学園テーマ「東海医療学園のブランド力を高める！」

重点目標

- I. 魅力ある学校づくりの推進
- II. 地域に貢献し、愛される学園を目指す
- III. 学園の運営基盤を強化する

評価 3: 優れている 2: 適切 1: 改善が必要

評価項目	成果と課題	評価	評価および次年度の取組み
1. 教育理念・目的・人材育成像	学校案内、ホームページ及び学生便覧等において、教育理念・人材育成像、ならびにアドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシーを学校の内外に向けて明示し、理解に努めた。	2.6	各ポリシーとも適格であると思う。引続き、達成に向け努力して欲しい。
2. 学校運営	学園テーマ、重点目標達成に向けて基本方針を定めるとともに学校経営計画を立案。全体会議等を通じて教職員の共通理解に努めた。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類に移行され、概ね従前通りに計画どおりの業務執行を行った。	2.6	しっかりとした組織運営がされていると思います。
3. 教育活動	<p>1) カリキュラム 教材「プロフェッショナルリズムとリスク管理」が完成し、教育課程編成委員会にて質の高さが評価された為、継続をする。</p> <p>2) 分かりやすい授業への取り組み 教員による自己点検評価、学生による授業評価、校長等による授業参観及びフィードバックにより授業の改善向上に努めた。</p> <p>3) 適切な成績評価 単位認定、進級・卒業認定等の基準を定め、これに基づく適正評価に努めた。試験においては必要度・難易度から十分吟味した問題の作成に努めた。</p> <p>4) 教職員の資質向上 学園教職員研修会を開催し、ICT教育について、Google classroomを用いてスマートフォンやPC等の機材を使用し、何ができるのかを体験しながら行った。今後、どのように取り入れられるか検討する。その他、関連学会、学校協会教員研修会および各種セミナー等に参加し、資質向上に努めた。</p>	2.8	<p>・タブレットは各自で準備とあるが、学校で貸与することは考えていないか。→ 現在、学生の使用の仕方（教材だけでなくプライベートでも使用）を考慮し各自での準備としている。今後、学校で一括で購入できるような助成金等も調査してみる。</p> <p>・時代に合った対応をしていると思うが、必要があれば柔軟に取り入れて欲しい。</p>

<p>3. 教育活動</p>	<p>5) 臨床実習 2年生のあん摩臨床実習は、地域住民、教職員・3年生・学生の家族を患者として行い、外部の施術所臨床実習は8ヶ所の施術所の協力で実施し、施術者としての態度・技能の向上に努めた。</p> <p>6) その他の教育活動 球技大会はレクリエーション大会として、学園祭は地域交流イベントとして開催し、教職員や地域との交流や学生相互の親睦を図ることを目的に行った。解剖見学実習は、鶴見大学のご協力の下、2年生の見学を行った。5年ぶりに特別授業として、非常勤講師で臨床を行っている山田先生、神田先生の実技を中心とした内容で全学年の学生を対象（3年生優先）として開催した。放課後に課外コース（旧ゼミ）として伝統鍼灸コース、Beautyコース、手技療法コース、訪問施術コースを開催した。</p>		
<p>4. 学修成果</p>	<p>進級率・卒業率の維持向上のため、面談による問題発見・助言に努めたが、中途退学者は4名（休学から退学は1名）であった。理由は進路変更であった。また、卒業認定試験後の学習サポートに努めた結果、留年者は0名であった。休学者は、健康上の理由で1名であった。</p> <p>年間を通じて国家試験対策授業の実施、向上学習など合格率向上に努めたが、あん摩マッサージ指圧師試験96.9%、はり師試験75.7%、きゅう師試験は72.7%であった。既卒者は14名がはり師、きゅう師の国家試験を受験したが、それぞれ2名が合格した。</p> <p>（公社）東洋療法学校協会によるはりきゅう実技評価を受け、受験者全員が合格した。</p> <p>日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー認定試験について、令和5年度AT理論試験に現役生3名、修了生2名合計5名が受験し、現役生2名が合格した。2名は実技試験を受験した。合否発表は4月下旬～5月上旬の予定。</p> <p>（令和4年度理論試験の合格率は30.0%、実技試験の合格率は76.5%となっている。）</p> <p>JATI認定トレーニング指導者資格試験に2名が受験し、2名が合格した。</p>	<p>2.2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者が0名を達成できるよう努力して欲しい。→各学年の面談やサポートを更に徹底し、防止に努める。 ・国家試験合格者100%を目指して、引き続き指導を頑張ってもらいたい。→1,2年生からの補講や向上学習にも力を入れ、学力向上のためのサポートを行っていく。 ・まだ未合格の既卒者の指導も行って欲しい。→既卒者には学内の模擬試験の受験を可とするなど、対策を行う予定である。 ・入学時に本人の意思より、高校教員、保護者等に勧められて入学する者もいるのでは？そういう学生は、学習等で少し躓いたりすると、退学してしまうケースもあるように思う。

<p>5. 学生支援</p>	<p>1) 進路相談 ①就職ガイダンスを8/4(金)に開催した。参加企業等は26件で、都道府県別では、静岡県10件、神奈川県5件、東京都8県、愛知県3件であった。 ②キャリアマップアプリでの、求職、セミナー参加、など多岐に渡る活動環境を継続利用したこと。 ③令和5年度の求人件数は459件(キャリアマップ:359件、学校直接の求人依頼:100件)であった。前年度は470件(キャリアマップ358件、学校直接112件)であり、状況としては、ほぼ横ばいであった。 補足として、キャリアマップ内の求人件数については、全国の同分野校も閲覧共有できる環境にあるため、本校のみに対して登録されたものではない。また、両方に求人を提出している事業所については、学校へ提出された求人を優先している。</p> <p>2) 健康管理 学校保健安全法に基づき、学生及び教職員の健康診断を実施した。新型コロナウイルス感染症は5類へ移行となったが、引き続き校内での手指消毒、衛生管理に努めた。また、B型肝炎予防接種を実施、実習および将来の業務による感染防止に努めた。</p> <p>3) 生活相談 ①日本学生支援機構奨学金(高校新卒者に対する予約採用、在学採用、社会人に対する在学採用)に関する相談、貸与申請、継続手続きなどの支援に努めた。 ②期限までに授業料等納付困難な学生に対し、分割納付を助言、指導した。 ③校友会奨学金制度に基づき、対象学生に給付した。 ④高等教育の修学支援制度の継続認定を受け、対象者に対し給付型奨学金と連動した授業料減免制度の申請、手続き等を行った。利用者は全学年で11名であった。 ⑤臨床心理士による学生相談を実施、学習や生活についてのサポートに努めた。</p> <p>4) 卒後教育 付帯教育である卒後臨床専攻コースに1名が進み、研修を修了した。 卒後臨床実技セミナーを3回開催した。</p>	<p>2.8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実はしていると思うが、更なる改善を期待する。 ・現在の経済状況を見中では、支援内容は充実していると思う。 ・健康管理、衛生管理、安全管理もよくできていると思うが引続き継続していってもらいたい。 ・外国人を受け入れた場合の支援(補助金、支援金等)も充実させてはどうか。→現在の高等教育修学支援制度は永住者も対象となるため、HPへの記載や、相談会時に外国人の高校生が来場した場合などにアピールしていきたい。 ・卒業後の進路について、医療機関、スポーツ以外の分野で活躍していることを打ち出してはどうか。進路の幅が広がることで、学生募集にもつながると思う。
----------------	--	---

<p>6. 教育環境</p>	<p>1) 施設・設備の構造・面積等を法令に準拠している。 2) 図書室に飛沫防止のためのパネルを設置している。 3) 各学年の普通教室に壁付けプロジェクタを設置したこと。 4) ICT教育開始に備え、1号館に学生用Wifi設備を整備したこと。 5) 1号館階段のシーートの張替を行ったこと。 6) 各階に防犯カメラを設置、防犯・安全対策に努めている。 7) 非常放送設備、防災報知装置等の定期点検を実施した。 他、教具・図書等の充実に努めた。</p>	<p>2.8</p>	<p>・時代のニーズに沿った環境整備をしていると思う。 ・教職員が努力し工夫を凝らし取り組んでいるように思う。</p>
<p>7. 学生募集 および受け入れ</p>	<p>アドミッションポリシー及び学生募集要項に基づき、適正に実施している。 1) 令和5年度生の入学定員充足率は80.0%であった。 2) インターネット出願を継続利用し、出願手続きに対する簡素化を行った。 3) 本校の情報を、適宜学校ホームページやSNS等で発信した。 4) オープンキャンパスを開催し、本校の魅力発信に努めた。 高校生対象の入試説明会、社会人対象の夜間の学校説明会も例年通り開催した。 5) 業者主催による進学相談会（会場型、高校内）への参加、高校訪問を積極的に行ったこと。 6) 新入生プレスクールを実施。感染症対策に努めつつ、新入生同士のコミュニケーション、学習への意欲向上、基礎学力の把握等に努めた。また、保護者に対しても学習支援の説明・協力を求めた。 7) 高等学校からの依頼により、静岡東部地区3校出張授業に対応したこと。 （裾野高校、富士宮東高校、加藤学園高校）</p>	<p>2.2</p>	<p>・充足率100%は達成して欲しいが、全国の養成校の募集状況をみると実情はこれくらいだと思う。 ・あはき師という仕事の魅力向上が必要である。これは、業団体、学校協会でも議論し分野の啓蒙をしていくことが大切である。 ・少子化が進む中で、外国人（在日の者）への広報も行ってはどうか。幼少の頃から日本で生活している者であれば、日本語能力、文化への対応も問題ないと思う。</p>
<p>8. 財 務</p>	<p>健全な財務状況の保持と情報公開に努めている。 予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。令和5年度においても定員充足を充たせなかったことによる収入減により、支出が収入を上回る状況となった。 会計監査は適正に実施されている。</p>	<p>2.0</p>	<p>・定員を充足することで改善すると思うので、学生募集を努力して欲しい。</p>

<p>9. 法令等の遵守</p>	<p>専修学校設置基準、職業実践専門課程の規程、養成施設認定規則および同指導ガイドライン等の法令を遵守している。 前年度の学校運営について学校関係者評価を実施、その結果を公開した。 令和5年度は、東海北陸厚生局の現地調査があり、結果「適正な学校運営を行っている」旨の評価を得た。</p>	<p>2.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も適切な対応を期待する。 ・東海北陸厚生局からの指導が殆どなかったことは評価できる。
<p>10. 社会貢献・地域貢献</p>	<p>施術所の運営を通じて、市民の保健衛生の向上に寄与した。 熱海市が主導している熱海市人材バンクに登録し、熱海市民の皆様に向けていつまでも健康に生活する為の身体づくり教室を開講した。 毎年小田原アリーナで開催されている「全国定時制高校バドミントン大会」、鹿児島国体が開催され参加した。近隣高校の部活動の現場実習を兼ねたサポートは継続している。 県内高等学校における出前講座に参加した。</p>	<p>2.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、高校等の部活動が外部指導者になっていくと思うので、もっと出前授業をアピールしてみてもどうか？ ・国民や地域住民が理解できる、受入れを引続き行って欲しい。 ・適切な社会貢献が出来ていると思うが、更なる努力を期待する。

東海医療学園専門学校 学校関係者評価委員会

日 時 令和6年5月16日(木) 16:00～17:40

場 所 東海医療学園専門学校会議室

出席者 学校関係者評価委員会

委員長 矢田 真樹 (校友会監事・静岡県鍼灸学術研修会会長)
委 員 斉藤恭二郎 (公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会会長)

〃 中村 聡 (静岡県保険鍼灸マッサージ師会会長)

〃 井出 啓之 (とがみえん児童クラブ理事長)

〃 澁谷 哲平 (校友会副会長) 〃

教職員 木村 博吉 (校 長)

〃 城 茂高 (事務長)

〃 水野 浩一 (教務課長)

〃 太田 一郎 (臨床センター長)

〃 金川 小百合 (AT コース長)